

令和元年度 事業報告

I 理事長あいさつ

令和元年度を終えて

新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの命が失われています。私たちも同様のリスクを抱えるものとして謹んでお悔やみ申し上げます。

世界中が、行動変容を求められているなか、当協会も年度末にかけてさまざまな対策を検討してまいりました。4月早々には、最低人員の犬舎対応を除いて全員テレワークで職務に当たっており、在宅勤務だからこそ出来ることを一人ひとりの職員が懸命に考え、行動しています。不便、不自由なことばかりではありますが、そのなかにあっても犬たちには十分なケアが行き届くように細心の注意を払い、皆さまにご心配をおかけすることのないように取り組んでおります。

お陰様で、今年度も2組の新たな介助犬ペアを誕生させることが出来ました。また、法規定に捉われずに「介助」の概念を見直し、犬たちのもつそれぞれの個性を生かした幅広い活動として、Dog Intervention の取り組みを拡大することが出来ました。

長久手市からふるさと納税としてのご支援も賜り、With You プロジェクトを推進することが出来ましたことには改めて感謝申し上げます。

中長期的に行動変容を求められることになりましたが、これからも犬を見習って前向きに明るくこの難関を乗り越えていきたいと考えております。

今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人日本介助犬協会
理事長 伊藤 利之

Ⅱ. 令和元年度 事業報告

1. 介助犬訓練

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて、2組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

新規入所犬として候補犬 25 頭を確保し、評価及び訓練を行った。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導

介助犬への可能性が高いと思われるパピーに対して早期訓練を行った。パピーホームボランティアに対しては、訪問指導と胎ごとグループプレッスンを通して飼育指導を行った。また、一昨年度より開始したパピープログラムに関して継続的なデータ蓄積を行った。

③ 繁殖犬メス5頭から 24 頭のパピーを確保した。

繁殖犬オス1頭が他団体のメス犬と2回交配を行った。

④ 国内の補助犬育成団体より訓練犬として 2 頭の成犬を導入した。

⑤ Career Dogs Australia と凍結精液の購入に関する相談を行った。

⑥ Dogs for Kids with Disabilities より繁殖犬としてオスの成犬 1 頭を導入した。

⑦ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、人工授精手術を行った。

(3) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者 21 名に対し、「アフターチェック表」、「介助犬健康診断書」を送付し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。特に新規使用者に対しては月1回程度の継続指導を行い、その他の使用者に対しても障がいの進行によるニーズの変化など、必要に応じた再訓練を行った。(訪問指導の合計 69 回)また、協会イベント来訪時なども利用した継続指導を実施した。

その他電話・メール等での継続指導を行った。(電話:116 回、メール:175 回)

② 使用者交流会

介助犬総合訓練センター 開所 10 周年記念式典に合わせ、「使用者の集い」を 11 月 1 日(金)~2 日(土)に愛知県長久手市で開催した。ちなみに参加ペアは 14 組であった。

(4) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

使用者の就労継続に関して相談支援を行った。

2. 人材育成・研修

(1) 訓練技術向上

① 訓練士の育成

訓練担当者、飼育管理担当者へOJTにて基本訓練・介助作業訓練の指導を行った。

② 介助犬訓練士研修生の養成

第14期研修生2名が、介助犬の育成・普及活動に関わる全研修課程を修了した。

(2) 研修関連

① 一般社団法人優良家庭犬協会主催の動物介在プログラム講習会に職員1名を派遣している。

-犬山動物総合医療センター主催の犬の皮膚トラブルに関するセミナーに職員1名を派遣している。

-コングジャパン主催の犬のトレーニングに関する講習会と訓練センターで開催し、訓練部・広報部職員が受講している。

② 予定していた Career Dogs Australia の Lauren Elgie 氏による繁殖・パピー育成プログラムについてのコンサルティング(豪日交流基金による助成)は、COVID-19の影響で延期となった。

3. 相談・指導助言

(1) 介助犬希望者への相談支援

- ① 介助犬に関心のある障がい者を対象に個別体験会を実施した。(全国労働者共済生活協同組合連合会による助成事業)

また、見学会終了後に相談会を開催し、希望者への相談・アドバイスをを行った。介助犬希望者、または待機者に向けて宿泊体験を含む体験入所を実施した。

名称	実施日	参加者数	開催場所
体験会	6月24日(月)	10名程度	北海道せき損センター
	7月14日(日)	2名	センター
	1月8日(水)	20名程度	国立リハビリテーションセンター
相談会 ・ 説明会	5月11日(土)	1名	センター
	7月14日(日)	1名	センター
	12月14日(土)	2名	センター
	1月18日(土)	3名	センター
	2月8日(土)	1名	センター
体験入所	5月11日(土)～12日(日)	1名	センター
	8月31日(土)～9月4日(水)	1名	センター
	9月14日(土)～16日(月)	1名	センター
	10月23日(水)～24日(木)	1名	センター
	12月15日(日)～16日(月)	1名	センター

- ① 6月25日(火)に北海道せき損センター(北海道)にて介助犬啓発イベントを開催した。

4. 補助犬関係団体協力

(1) 補助犬育成団体との連携強化

北海道盲導犬協会での訓練犬評価へ参加した。北海道盲導犬協会との繁殖業務における協力、北海道盲導犬協会、東日本盲導犬協会からの成犬導入を行った。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

- ① ADI(Assistance Dogs International)の認定申請を行い査察に向けて準備を行った。また、ADI Conference(米国インディアナ州)へ職員を2名派遣した。*3月査察予定がCOVID-19のため2020年9月以降の延期となっている。
- ② Kyno-Logisch(スウェーデンの盲導犬育成事業者)を訪問し、オランダからの犬の導入に向けて飼育委託等の相談を行った。
- ③ 2.(2)②の通り
- ④ Lauren Elgie氏の仲介により、Dogs for Kids with Disabilitiesより繁殖犬としてオスの成犬を1頭導入した。(メスキュード医療安全基金による助成)

5. 調査研究

(1) 各学会への参加、演題登録

- ① 日本身体障害者補助犬学会 第11回学術大会へ団体会員として加盟し、一般演題発表を行った。

「日本介助犬協会による動物介在療法を目的とした大学病院への勤務犬貸与に関する事例報告」

訓練部 水上 言

「日本介助犬協会の繁殖における新たな取り組み」

訓練部 橋本 友樹

- ② 第10回兵庫補助犬研究会へ参加し、一般演題発表を行った。

「駅のエレベーターに関する調査報告」

訓練部 田邊 真生

(2) リハ専門職等との補助具の開発

リハ専門職、義肢装具企業と連携し、使用者が介助犬と暮らすために必要な自助具作成のための相談を行った。

(3) 肢体不自由者への相談支援

全国の福祉機器展にて潜在的なニーズを持った希望者に対して情報提供・相談を行った。

実施日	名称	開催場所
4月18日(木) ～20日(土)	第25回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展 バリアフリー2019	インテックス大阪
7月27日(土) ～28日(日)	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2019	パシフィコ横浜
9月25日(水) ～27日(金)	第46回国際福祉機器展	東京ビッグサイト

6. 公益的な活動

- (1) 動物介在療法として聖マリアンナ医科大学病院へ貸与した2代目勤務犬(DI犬)についてハンドラー看護師2名へのハンドリング指導を継続的に行った。
- (2) 箱根病院への勤務犬貸与に向けて、飼育担当候補者宅での飼育を開始した。
- (3) 上記2か所の病院の他、多摩病院、野のすみれクリニックでのAAAを実施した。楓の丘こどもと女性のクリニックへDI犬の貸与に向け、看護師のハンドラー養成を開始した。
- (4) WithYouプロジェクトとして、障がい者、障がい児等のある3家庭に対してキャリアチェンジ犬を譲渡した。
- (5) 家庭犬飼育の質の向上を目的に、犬飼育委託ボランティア、センターボランティア、キャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対して6回の講習会を実施した。また、10月26日に愛知県でキャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対して交流会を行った。

7. 普及啓発

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 「介助犬フェスタ 2019」を開催した。

- ・身体障害者補助犬法の周知、介助犬への認知度向上を目的とし、「見る、知る、感じる、そして楽しむ」をコンセプトに愛・地球博記念公園・地球市民交流センターにて開催した。天気にも恵まれ、過去最高 7,000 名を超える参加があった。
- ・感謝の集いを開催し、個人・法人会員、支援・協力企業、ボランティアに対して、2 組の介助犬ペアの誕生、および勤務犬とハンドラー認定について報告した。

② 地域に根ざした講演会を開催した。

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
毎月第 2 土曜日 (5・3 月を除く)	一般見学会	9	554 名 (総数)	センター
7 月 20 日(土)	オープンキャンパス	1	50 名	センター
7 月 25 日(火)	子供向け見学会	1	51 名	センター
8 月 18 日(日)	介助犬教室	1	46 名	横浜市スポーツ 医科学センター
9 月 28 日(土)	介助犬とふれあおう	1	600 名	ららぽーと横浜
3 月 7 日(土)	オープンハウス	延期	—	センター

③ はたらくワンワンランド（J A 共済連主催）

37 件を実施した。

（青森県、福島県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、静岡県、岐阜県、愛知県、三重県、大阪府、岡山県、高知県、徳島県、宮崎県、熊本県、沖縄県 以上 19 都府県）

④ 第 56 回日本リハビリテーション医学会(第 13 回国際リハビリテーション医学会世界会議)にてワークショップを開催した。

⑤ イベント・講演・講義

・イベント・講演会 …… 200 件

※新型コロナウイルスの影響で 3 月はほぼ全てのイベント・講演・講義は延期または中止となった。

・講義：下記の大学や専門学校にて行った。

愛知医科大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、朝日大学、大阪保健医療大学、神奈川県立保健福祉大学、中部大学、帝京科学大学、東海大学、名古屋学国語大学、日本大学、日本福祉大学、ユマニテク医療福祉大学、横浜市立大学

・訓練センター視察 …… 70 件

・職場体験学習の受け入れを 8 校 11 名に対し行った。

(2) デモンストレーター養成

- ・デモンストレーター練習日を月 1 回設定し合計 9 回開催した。
- ※現在デモンストレーションの MC として 5 名が活躍している。

(3) 普及啓発街頭募金活動

- ① 街頭募金啓発活動を行った
23 回 募金総額：1,745,759 円
- ② 東京ドーム募金活動
26 回 募金総額：1,891,530 円
- ③ 短期・イベント募金
募金総額：6,396,634 円
- ④ 小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の街頭活動についても協力参加した。

(4) 募金箱設置

昨年度、設置先を精査した結果設置数が減少しましたが、今期は団体への設置もあり個数は 2,029 個と増加した。(前年度 1,895 個)
募金箱総額：8,288,164 円

(5) PR 犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加する PR 犬の作業力維持、並びに広報部職員の技術向上のため、訓練部と連携し PR 犬 9 頭の育成・訓練を行った。
また、訓練部と連携し、情報共有・技術向上ために PR 犬ミーティングを定期的実施した。

(6) ボランティアの確保

年 3 回の交流会を開催しボランティアの方々との友好を深めた。

(7) 賛助会員の新規入会促進・管理と継続支援者の確保

個人会員：2,221 件（前年度 2,059 件） 法人会員：146 件（前年度 138 件）
法人会員へ継続的な支援のお願いのため訪問に努めた。

(8) 『ほじょ犬の日』イベント

『身体障害者補助犬啓発イベント』に参加しデモンストレーションを行った。

(9) シンシアの丘開所 10 周年記念式典 ありがとう、これからも共に

介助犬総合訓練センター～シンシアの丘は、開所 10 周年を迎え所縁の深い方々約 320 名を招き、その軌跡を振り返る記念式典を 11 月 1 日（金）長久手市文化の家にて開催した。

(10) チャリティーグッズ

年間販売計画に基づいて、新しいグッズをラインナップに加えた。また、昨季より取り組んでいる、介助犬サポート大使 巨人軍 菅野投手とのコラボグッズの売り上げは収益事業の中で大きい存在となった。

グッズ総売上：25,436,645 円（内ジャイアンツコラボ：10,831,410 円）

8. 広報活動

(1) マスコミ対応

以下の取材を受けた。

内 訳	件 数
新聞掲載	44 件
雑誌・広報紙掲載	17 件
テレビ放送	9 件
ラジオ放送	4 件
合 計	74 件

(2) 広報物の作成

リーフレットを全面リニューアルした。(60,000 部)

CSR 冊子に With You プロジェクトと DI の取組みを加えリニューアルした。(2,000 部)

東京ドーム啓発活動用のリーフレットを作成した。

また、平成 30 年度のあゆみ（新聞記事掲載集）を制作した。

(3) 会報・HPの制作

会報制作では、寄付増収プロジェクトを企画し実施した。継続的な支援者や潜在的な支援者から寄付を獲得することができた。

ホームページで連載漫画「介助犬ライカ！」の掲載（全 16 回）を開始した。また、With You プロジェクトと DI の取組みについて公開した。

(4) ツイッター・フェイスブック等の活用

更新を頻繁に行いフォロワーや「いいね」数を増やし介助犬の啓発を行った。

フェイスブック：「いいね」…10,220 件 ツイッター：フォロワー …3,634 件

Instagram：フォロワー …3,599 件

(5) リハビリテーション関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

以下の学会に参加した。

国際リハビリテーション医学会世界会議（6/9～13）

日本リハビリテーション医学会学術集会（6/12～16）

日本身体障害者補助犬学会（10/5～6）

(6) リニモとの協働

リニモ駅長に就任している PR 犬が、リニモイベントに参加した。

9. 補助・助成

(1) 介助犬貸与に関する補助

令和元年度認定者在住の東京都、愛知県より、介助犬貸与に対して給付決定された。

都道府県名	補助金額
東京都	1,984,500 円
愛知県	1,500,000 円

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として 123,000 円が給付決定された。

長久手市より、介助犬広報啓発事業の補助として 300,000 円が給付された。

(3) ふるさと応援活動支援事業としての補助

長久手市より、介助犬にならなかった犬たち(キャリアチェンジ犬)の活躍支援事業として 1,822,000 円が給付決定された。

(4) 助成団体・事業

名称	金額	事業内容
全国生活協同組合連合会 全国労働者共済生活協同組合連合会	300 万円	障害者の自立と社会参加のための介助犬普及・啓発活動「～介助犬希望者への正しい情報提供動画の作成～」
毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金)	20 万円	海外(欧州)の補助犬育成に関する情報収集と情報交換
豪日交流基金(オーストラリア大使館)	72 万円	繁殖コンサルティングのため Lauren Elgie 氏招聘
中部ウォーカーソン	50 万円	パピープログラム研修

(5) 団体・企業等(使途指定寄付)

名称	金額	内容
デンソーはあとふる基金	35 万円	トレーニング室へのロールカーテン設置 折りたたみスロープ 3 台購入
メスキュード医療安全基金	100 万円	啓発広報事業用車両購入の一部として

10. 管理・運営

(1) 法令及びガイドラインに準拠した法人運営を行った。

・令和元年 7 月 18 日(木)、神奈川県による社会福祉法第 56 条第 1 項に基づく指導監査を受けた。

地域福祉課法人監査グループの担当官 2 名に対し、常勤役員 2 名、経理担当者で対応した。後日文書にて、現地において口頭で指摘された事項 6 点、口頭で助言された事項 1 点につき通知を受け、指摘事項に対し必要な処理を行い、第 3 回通常理事会に報告した。

・理事会・評議員会の開催状況

定款に定める理事会・評議員会を以下の通り開催し、適正な運営に努めた。

＊役員等体制の状況(令和2年3月31日現在)

理事・・・6名 監事・・・2名 評議員・・・9名
会長・・・1名 副会長・・・1名 顧問・・・1名

(2) 総務部・広報部を統合し「管理部」として活動した。

寄付収入に関する情報と啓発活動に関する情報を共有し一元化を目指した。またファンドレイジング戦略立案・活動強化の為、定期的にMTGを行い、協議・検討した。

(3) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

会報誌読者に向け、新規及びふるさと応援活動支援を通じて寄付依頼、新規登録会員への特典配布などを継続、実施した。

(4) 計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センター施設保全にかかる改修計画策定に取り組む。

保有車両について、計画的な保守の為、活用可能な助成金等を検討した。

(5) 業務効率化とコストダウン施策の検討・実施

両拠点の複合機について、業務効率を重視し入れ替え時期を早めるなどで経費節減を実施した。

(6) 労働環境の整備

働き方改革関連法が順次施行されるなかで、就業規則及び給与規程の見直しを行ない、職員に周知説明した。

11. その他

(1) 横浜市総合リハビリテーションセンター、名古屋市総合リハビリテーションセンターへ介助犬認定審査相談員として役員1名を派遣した。

(2) 横浜市総合リハビリテーションセンター、名古屋市総合リハビリテーションセンター、千葉県千葉リハビリテーションセンター、兵庫県立総合リハビリテーションセンターへ、介助犬認定審査員として役員1名、職員1名を派遣した。

(3) 動物と快適に暮らせるなごや推進会議へ役員1名を派遣した。

(4) 国土交通省 鉄道局交通政策審議会専門委員として役員1名を派遣した。